

INDEX～御覧になりたい資料をクリックしてください～



- ◆ 明治41年（1909年）に台湾総督府が発行した「台湾写真帖」のページをめくってみましょう。（画像をクリック→）

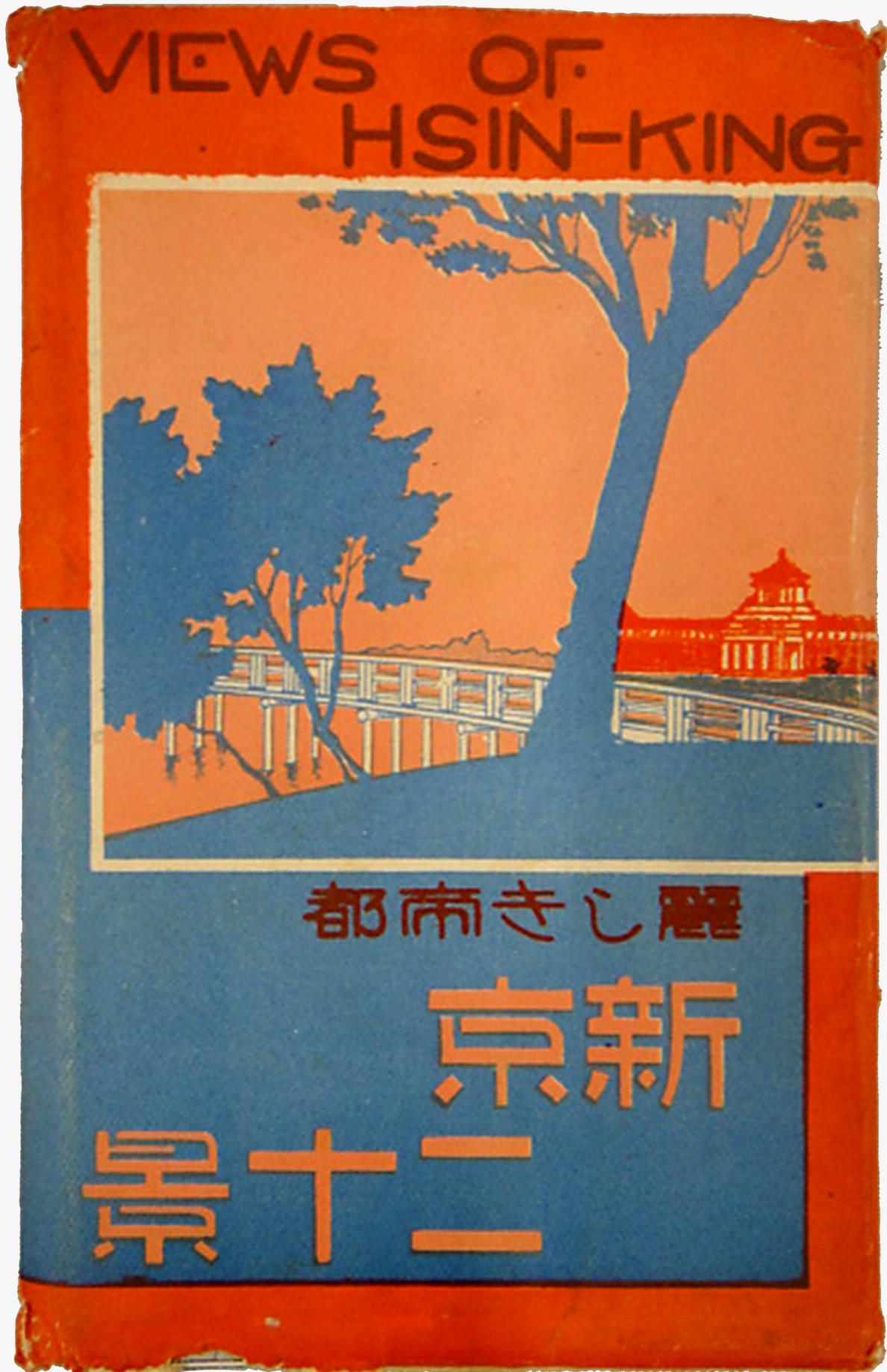
- ◆ 今月のもうひとそえ

[「ストック・ナーゲルあります！」](#)



【1】麗しき帝都新京二十景絵はがき

[時岡家文書108](#)



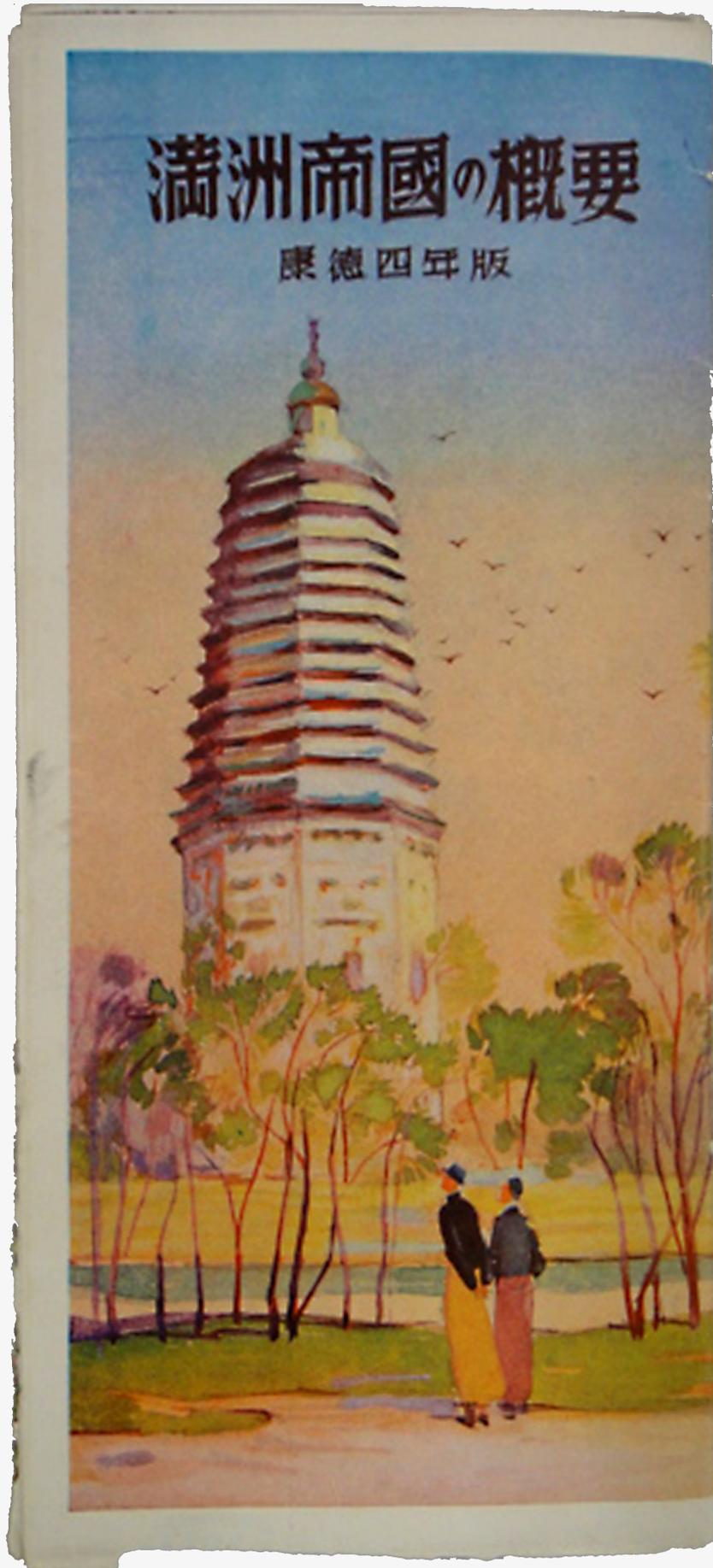
【2】 延び行く国都 新京十六景

雨村家文書90



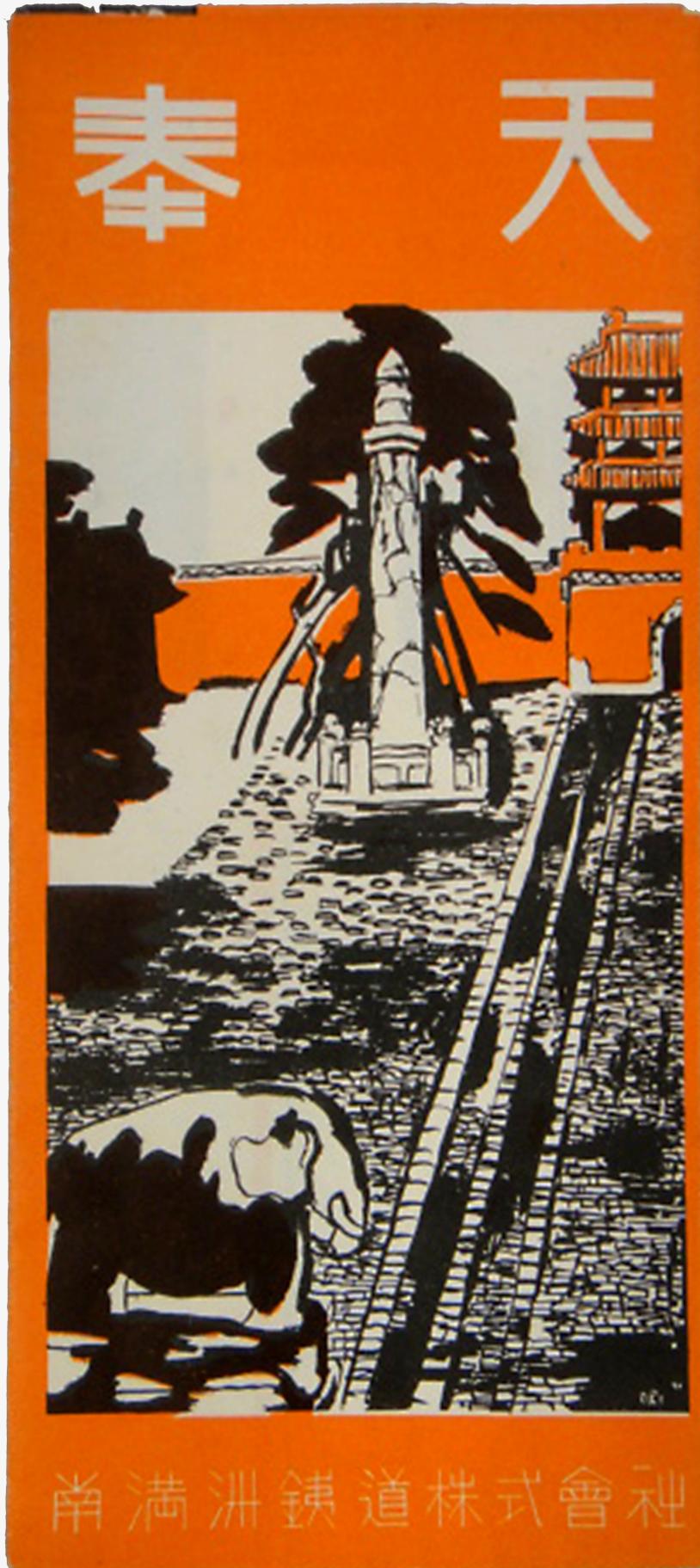
【3】満州帝国の概要

[一般郷土史料B348](#)



【4】奉天

三由家文書29



【5】朝鮮旅行案内

[三由家文書29](#)



【6】慶州

[三由家文書29](#)



【7】平壤

三由家文書29



【8】朝鮮案内

梶山家文書2009



◆「台湾写真帖」をめくる（1）

木梨家文書692



豊穡な新天地であることが強調されるとともに、農耕の様子や建設中の工場の前で畑を耕す現地の人々の姿には、近代帝国主義の名のもとに抱かれた「拓殖」のイメージが刻み込まれています。

◆「台湾写真帖」をめくる(2)

木梨家文書692



豊穡な新天地であることが強調されるとともに、農耕の様子や建設中の工場の前で畑を耕す現地の人々の姿には、近代帝国主義の名のもとに抱かれた「拓殖」のイメージが刻み込まれています。

◆「台湾写真帖」をめくる（3）

木梨家文書692



鉄道・道路・ダムなどのインフラ整備、瀟洒で威厳に満ちた建物、「新世界」は近代国家の理想像を表現する舞台でもありました。。

◆「台湾写真帖」をめくる（4）

木梨家文書692



鉄道・道路・ダムなどのインフラ整備、瀟洒で威厳に満ちた建物、「新世界」は近代国家の理想像を表現する舞台でもありました。。

「ストック・ナーゲル」あります！

三由家文書29

台湾・朝鮮・満洲は近代日本人にとっての「新世界」でした。

世界的な帝国主義の潮流のなか、対外的な膨張の投影される舞台としてこれらの「新世界」が強く意識されていたことを令和2年度第1回の月間小展示で紹介しました。

しかし、一方で、「新世界」は、まだ見ぬ知らない世界、非日常の空間として、人々の好奇心をくすぐるものでもありました。

写真や鳥瞰図が多用された各地の案内書がさかんに発行されるようになっていきます。大正デモクラシーの風潮によりもたらされた旅行の大衆化も、こうした「美しく」「わかりやすい」刊行物の出現をあとおしました。現地でも、道路整備、鉄道敷設、ホテル建設などが進められ、新たな観光ルートが策定されていきました。



当時、極上のレジャーとして熱いまなざしを注がれていたのが、山容や溪谷を愛でるハイキングでした。美しい景観のなかに身をゆだね、高揚感や達成感を味わうという側面もあったようです。昭和初期の長門峡の観光開発も、このような時代の雰囲気象徴したものです。



写真は、旅行案内書の「ストック・ナーゲル」の広告。登山用の杖に貼り付けるエンブレムで、みやげものとして珍重されました。